

高木尚雄写真展

# 記憶の未来



F u t u r e O f M e m o r y

2020 3.4 WED — 3.29 SUN [月曜日休館]

時間	9:30~17:00 (有料区域への最終入場 16:30まで)
会場	万田坑 (熊本県荒尾市原万田200-2)
入場料	万田坑施設入場料 (大人410円、高校生310円、小中学生210円)
交通	JR荒尾駅から産交バス「倉掛線」バスに乘車。万田坑前バス停下車





# 記憶の未来

高木尚雄写真展

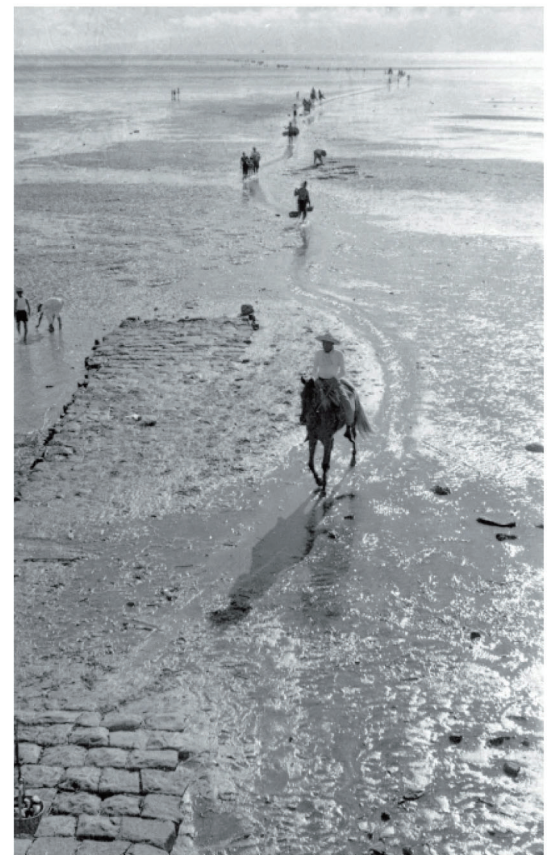
| Future Of Memory |

本企画展では、世界文化遺産である万田坑構内施設を会場として、元炭鉱マンの高木尚雄氏が撮影した写真を中心に、音楽や映像、残された機械や道具等を取り入れて展示空間を創りあげます。

「記憶」をモチーフに、空間のディレクションを大鶴憲吾氏、音楽制作は石橋英子氏が担当。

単なる写真鑑賞にとどまらない、見る側と作品の記憶が交差するような体験へと誘います。

時の流れを映す万田坑の空間に入り込み、炭鉱とまち、そして時代の「記憶」をめぐる物語をお楽しみください。



## プロフィール

### □ 高木尚雄 Hisao Takaki

1923年熊本県玉名郡平井村(現荒尾市)生まれ。1946年2月、中国上海より引揚げ。終戦直後に三井鉱山三池炭業所に入社。四山坑の人事係として働くかわら、趣味であったカメラで三池炭鉱の撮影を始める。約半世紀、90歳近くまで撮影を続け、三池炭鉱にかかわる労働や生活、まちの風景や人物などの数多くの記録を残す。三池炭業所の職員という立場から、特別な許可のもと危険な坑内作業の撮影にも取り組み、それらの写真は三池炭鉱の戦後から閉山、そしてその後までを記録した貴重な歴史資料ともなっている。2003年『地底の声—三池炭鉱写真誌』(弦書房)にて第25回熊日出版文化賞受賞。2010年『三池炭鉱遺産—万田坑と宮原坑』(弦書房)出版。2015年1月永眠。

### □ 大鶴憲吾 Kengo Ootsuru

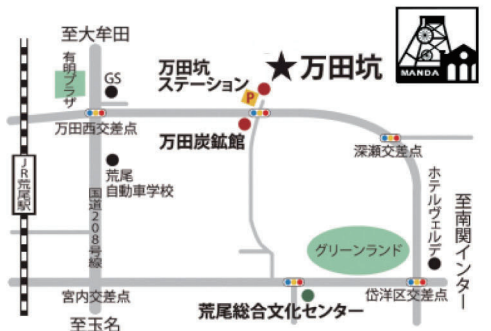
1973年福岡県宗像市生まれ。東京造形大学デザイン科Ⅱ類建築コース卒業。卒業後、ヨーロッパで60年代以前のヴィンテージ古着と出会い、独学で服作りを学ぶ。2006年よりオリジナルブランドであるGROUを展開。デザインから縫製まで、全ての工程を自身のアトリエで行っている。各地のギャラリーや書店、寺院や廃墟等、さまざまな場所で受注会を開催。GROUとしての活動の他に、博物館展示のディレクション、美術展やライブ会場での空間演出など、場の特性を活かした仕事も手がけている。

### □ 石橋英子 Eiko Ishibashi

日本を拠点に活動する音楽家。シンガー・ソングライターとしての活動、即興演奏、他のミュージシャンのプロデュースや舞台や映画の音楽制作も行う。これまで7枚のアルバムをリリース。3枚のアルバムはアメリカのレコードレーベル Drag City からリリース。Editionsmego より Merzbow との DUO 作品、Black Truffle より Darin Gray とのデュオ作品を発表。2019年、フランス国立電子音楽研究所 Ina-GRM などの招聘を受けヨーロッパ7カ国を巡るツアーを行い、タスマニアのフェス DARK MOFO に出演、バンドを率いてオランダ、ユトレヒトのフェス Le Guess Who? とベルギー、コルトレイクのフェス Sonic City に出演。



## インフォメーション



【熊本県荒尾市原万田 200-2 tel 0968-57-9155 (万田坑ステーション)  
荒尾駅から産交バス「倉掛線」バスに乗車。万田坑前バス停下車

【企画・問い合わせ  
福岡大学 福岡・東アジア・地域共生研究所 (担当: 藤野)  
tel 092-871-6631(代) 内線 4046 e-mail ykrf118@fukuoka-u.ac.jp